

令和2年度 第2回 台東区地域ケア全体会議 議事概要

日時：令和3年2月22日（月） ※新型コロナウイルス感染防止対策のため書面開催

出席者：18名

新田会長 須田副会長 加藤委員 木山委員 奥沢委員 鬼久保委員 山村委員
石井委員 宮本委員 小竹委員 上野委員 澤潟委員 柴田委員 和泉澤委員
高木委員 原嶋委員 齋藤委員 小竹委員

●令和2年度 地域ケア会議の実施状況について 資料1 資料2

台東区における地域ケア会議の各会議体の名称・目的は資料1でご確認ください。

令和2年12月末時点での各会議体の実施回数は、資料2でご確認ください。

新型コロナウイルス感染症の影響で、『個別課題検討会議』を十分に実施することができなかったため、『地域課題検討会議』として位置づけている、㉟地域ケア包括合同会議、㊸チームミーティングは未実施となっております。

【委員からの意見】

・コロナ下での開催努力に敬意を表しますが、関係者の参加のしやすさを考慮すると、今後はコロナの流行状況にかかわらず、オンライン開催を可能とする環境整備を進めることが必要かもしれません。

⇒（回答）委員の皆様が参加しやすく、かつ会議が有意義なものとなるよう、開催方法等について今後も検討してまいります。

・大変な状況ながらも、地域ケア個別会議を8回も行えたのは意義深いと思いました。個別ケースも、zoomを使うなどして行えると区民のために役立つと思います。

⇒（回答）会議のオンライン開催も視野に入れつつ、環境整備を進めてまいります。

・地域ケア個別会議において、高齢者主眼の会議になろうかと思われる会議に高齢者の参加を控えるとの事態に会議進行の苦勞を感じます。

・新型コロナウイルスの蔓延により、地域ケア会議の各会議に地域課題を解決・支援すべき、本人の関わりのある民生委員、町会の方などの参加を控えたことにより、情報を得られず、各課題の解決に大変に苦慮されたようにみえます。

・すべての内容解りやすく、理解しやすかったです。

・コロナ禍中思うように進められない現状の中、努力して頂きお疲れ様です。

●令和元年度「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」実施状況について 資料3

前回（第1回）ご報告のとおり、昨年3月に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言が発出されたことから、④「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」は以下の理由により令和2年度分の開催を中止しました。

- ▶高齢者本人が参加する会議であり、リスクが高い。
- ▶社会参加や生きがいに繋がる具体的な地域の活動（通いの場・ボランティア活動等）が活動していないため、本人に対して実行性の高い提案をすることが難しい。

今回は、前年度ご参加いただいた方のモニタリング期間（3・6か月後）、とモニタリング後の現在のご様子を報告させていただきます。

多くの方が、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛や活動機会の減少によりマイナスの影響が出ております。一方で、自宅で自主的に運動を行っている方や、デイサービスでのリハビリを継続している方もいらっしゃいました。

この会議の主な目的は、高齢者本人のモチベーションを上げ、興味のある地域の活動などに参加することで生きがいづくりに繋げることです。会議に参加したことをきっかけに意識・行動に変化が生じた方もいらっしゃいました。

一人でも多くの高齢者の「自立」に寄与できるよう引き続き専門職とともに工夫してまいります。

【委員からの意見】

- ・それぞれの専門職が具体的アドバイスを行っていていいと思う。成果はどのようなのでしょうか。
⇒（回答）会議を機に、自主的に運動したり体操教室に通い始めたりする方も中にはいらっしゃいます。資料の様式につきましても、会議実施後の成果が分かりやすいように工夫してまいります。
- ・体操教室等が休みになったり、デイサービス不参加など外出控えが散見し、筋力低下を懸念するケースが問題となりそうですね。区の催し物や各教室などが中止になって退屈しているとの高齢者の声をよく聞きます。
⇒（回答）長引く活動自粛による高齢者の筋力低下・認知機能低下を予防するため、自宅でできる体操等を紹介する番組をCATVで制作・放送し、DVDを配布しております。是非ご活用ください。
- ・全体を通してモニタリング後の現在の状況から本会議における一定の効果が示されていると思います。コロナ禍でどのようにモチベーションを維持し、区内の地域資源の稼働状況を把握し活用していくか、次年度の本会議の運用に期待します。
⇒（回答）現在、コロナの影響により区内の催しや教室が通常通りに運用できない状況となっております。そのような状況下で高齢者が自分らしく生活していくためにはどうしたらよいか、サポーターの皆様と協力しながら検討してまいります。

- ・在宅でその人らしい生活ができる様に、目標を決めて行動力を起こす大切さを感じました。利用者を中心とした、総合力（人的）の重要性、サポーターの重要性を感じました。
- ・コロナ禍で自宅時間が増え、ADL低下になりがちだが、モニタリングによって維持向上につながっていると感じます。

●令和2年度「地域ケア個別会議」実施状況について 資料4

会議の主な目的は、地域包括支援センターや地域のケアマネジャーが担当する困難な問題について、解決に向けた検討をするものです。

このことから、緊急事態宣言下においても必要な場合は開催できるよう昨年6月にマニュアルを改訂し、区のガイドラインに沿った感染症対策を講じたうえで開催できるようにしました。

また、本来は地域住民の方々と一緒に検討を行うこととしていたため、民生委員や町会の方などの地域住民（本人・家族を含む）の参加を開催の条件としていました。改訂当時、高齢者や基礎疾患のある方が重症化のリスクが高いという情報があったことから、地域住民のうち高齢者の参加を原則控えることとしました。

今回は、令和2年12月末までに開催した8件及び開催中止となった1件の計9件について、報告させていただきます。資料4

【委員からの意見】

・会議で決定された支援計画に基づいて、その後の事業評価（モニタリング）をされているのが可視化されていることは評価できます。こちらはこの会議用の様式だと思いますが、すべての地域包括支援センターが扱う相談をこちらの様式で統一することができれば理想的だと思います。

⇒（回答）ありがとうございます。各種様式については検討をしております。

・幅広い案件について検討すべき。

⇒（回答）多様なケースの検討を通じ、地域課題やニーズを把握し、地域づくりや政策形成に結びつけられるよう邁進して参ります。

・会議後3か月後の状況が大きく変わっている事例も多く、ケアの継続の大変さを感じました。

・ケアマネジャー・ヘルパー・近隣住民・関係機関など、該当する各本人に対する支援に大変苦慮されていることが理解できた。

・今後は地域住民（高齢者）の参加をどう再開していくか是非ご検討下さい。

⇒（回答）高齢者や基礎疾患のある方は新型コロナウイルスの重症化リスクが高いという観点から、令和3年度についても高齢者の参加は原則控える形で予定しております。感染状況も踏まえつつ、徐々に高齢者の参加に向けた環境整備を行っていく所存です。

・要介護は低いが、在宅での生活がどれほど大変か問題が山積みです。関係機関への連絡、連携、大変にご苦労様です。

⇒（回答）制度やサービスの狭間にいる方たちにどのようにアプローチしていけるかも、個別事例を検討していく上での課題の一つだと捉えております。